感想

1	・田中さん、オフレコのところまで話していただきありがとうございました。嶋田先生、いい機会をいただきありがとうございました。 ・「ボランティア」（教室でのサブの立ち位置）から脱皮して、業として成り立つ子ども支援を、将来的（10年後？）に形になるように、と考えています。 教育委員会直下のボランティアをしているので、教育委員会へのアプローチ（職員として入り込み、自分の考えている日本語教育＆学習支援）という発想しかありませんでした。しかし、塾（NPO）としての活動というベクトルも視野に入れるのはアリだなと思いました。 　ただし、実現には一人ではできません。同じことを考え、それぞれの得意分野で実行出来る仲間をつくらないといけません。試行錯誤しながら経験とネットワークを積んでいこうと思いました。 ・必要な支援には、やはり言語支援×学習支援の両方を視野に入れる必要があると、改めて思いました。実際の支援の場で感じている難しさです。経験とともに学校教育で扱う内容のスキルアップもしていかなければならないと思いました。（教員免許を取りたいと考えています。） ・オンラインの可能性を感じました。私は三重にいますが、ターゲットを三重に限定するのではなく、オンラインを基盤に地域を広げて活動できるといいなと思いました。 ・日本語教育では継承語が大切だという流れがあります。しかし、実際にはその家庭の環境や周辺環境等で言語を選ぶ必要があると思います。（昨年度提出した修士論文で、このテーマで書きました）軸足をどちらに置くか、という大切さをズバリ言っていただいたので、とても共感しました。
2	「決定するのは当事者。決定を支えるための情報を十分に提供することが支援」「現場の先生方が安心して丸投げできるものを作る」「お金は集まるところに集まる」「外国人コミュニティを育てることがリスクヘッジ」「専門家が専門家でいられるための環境作り。そのための役割分担」心に残るキーワードがたくさんありました。ありがとうございます！
3	田中宝紀さんと言えばYahooの人で有名人、この業界におけるトップランナーのお一人でアドボカシーも精力的に行っている人、といった漠然としたイメージしか持っていませんでした。今回のお話を伺って、具体的にどのようなことを、どんなことに気をつけながら活動なさっているのか理解することができました。また、田中さんという具体的な人・ケースを知ることで、「じゃあ、自分はこう考えてみよう、こう動いてみよう」というヒントをたくさんいただいたように思います。これからの自分自身の活動の指針とさせていただきます。本当にありがとうございました。
4	自治体が斡旋する外国人児童の支援をやってきましたが、1人あたり50回までとか70時間までなどの縛りがあったり、ゼロ初級なのに週に1、2回しか会えなかったり、学校を通してしか連絡が取れなかったりと、もどかしいことが多く、コロナ自粛の間も何もできずに無力感ばかりでした。これからどうしたら良いのか、自分はどうしたいのか、まだ分かりませんが、色々なヒントをいただいたように思います。これからも、日本人・外国人分け隔てなく安心していられる場所を作っていけるように、少しずつ前進していきたいと思います。
5	今回も貴重なお話をありがとうございました。 シビアですが大切なお話をいただけて良かったです。 自分も日本語を教えるグループやブックカフェ等立ち上げたいと思って入るのですが行動力がないというのか…夢のままでおります。いい相棒が見つかればいいのですけどね。 また、子どもだけでなく親も含めた言葉のサポートもあるものだと気づきました。 以前から外国人親子は周りにいたので目に入ってはいたのですが、それほど深刻なふうではないので、それほど意識していませんでした。 また、先日見た「小さな留学生」というドキュメンタリーを視聴したこともありますのでなにかのサポートを今後して行きたいと思います。
6	現場の貴重な情報をすべて正直にお話いただき、感謝しています。私たち日本語教師ができること、またすべきことと、実際にはそれ以外に必要な役割も多いこと、学びの場を提供するためにまずは場づくりが必要だと強く感じました。そのために、日本語を教えること以外でできることがありそうです。色々考える機会をありがとうございました。

7の1	各方面で積極的に情報発信をされている田中宝紀先生のお話を直接伺えるということで 楽しみに思いつつ、リモート生活で弱っている我が身にはキラキラオーラがまぶしすぎて 辛くならないかと心配しながら参加しました。 しかし、冒頭の自己紹介のところで、あっという間にその懸念は打ち砕かれ、 お話に引き込まれました。 事業の内実や資金繰りの面まで伺える機会というのは、今まで他の日本語教育関係者からも なく、私も完全に見ないふりをしていた部分です。 田中先生のお話を伺いつつ、「どう稼ぐか」、「自分ならどこと組めるのか」と 自分の身に置き換えながら、今後の戦略を練るができました。 寺子屋でお話ししたとおり、私の勤務する大学は、日本語教育を副専攻で学ぶ学生も 小数存在しますが、外国ルーツの児童の支援に小学校に行っている学生のほとんどは 地域貢献、国際貢献をテーマにしている学生です。 ですから、日本語指導も教科学習もほぼ素人集団で、放課後教室の多くの時間は、折り紙を折ったり、 風船ゲームをしたりに当てられ、委託されている運営資金もそれらのイベントに使われることが ほとんどです。子どものコントロールもうまくできず、活動の成果も現れずの時期が続き、 この活動を仕切る同僚の大学教員（教育社会学が専門）も、「うちの学生ではだめだ」と、何度も支援をやめようとしてきた経緯があります。 このような実態で活動していた昨年度の夏に、今後の方法性について同僚から相談され、 私もできる範囲で支援に関わろうとした矢先に今回のコロナ騒ぎとなりました。
7の2	活動の不全感に加えて、オンライン化への躊躇があり、長らく活動を休止したのち、ようやく4月から、保護者を巻き込んで、オンライン支援に取り組むことになりました。 支援している学校の外国ルーツの児童の多くは、中国帰国者の3世、4世世代なので、ルーツの話には敏感なところがあるのですが、それ以外にも、小数ですが中国や別の国からのニューカマーの児童もいます。 今回お話を伺って、児童や保護者が希望するならば、留学生を巻き込んだ母語による学習支援を、 もう少し進めてみようという気持ちになりました。 ちょうど良いタイミングでお話を伺ったことで、「適材適所」「当事者中心」で関わることの大切さを理解しました。同僚から相談されてから、できるだけ、すべてに関わらなければと苦しくなっていたので、今回のお話を伺って荷物が軽くなりました。 また、田中先生がおっしゃった、自分の役割に専念していれば、情報も入って来るし、そのような頭の使い方ができるようになるというお言葉に大変励まされました。 マネジメントは苦手だと避けてきましたが、機会が来れば、そのような関わり方にも挑戦してみようと、気持ちが180度切り替わりました。 今回お話を伺って、ムクムクと育って来た「やる気」は、外国ルーツの日本語支援はもちろん、 大学などの組織での役割を考える局面においても、生き抜く原動力となりそうです。 「もうだめか」という曇り切っていた気持ちが、すっきりと晴れました。 もう少し、あきらめずにやってみようと思います。 舵を切る機会になりました。 貴重な機会をくださった田中先生、嶋田先生、本当にありがとうございました。

8	田中宝紀さんのお話を聞いて一番心に残ったことは、「最終的に子どものためになることを考えて行う」ということです。今まで「子どもへの日本語教育」というと子どもへ直接日本語を教えたり関わったりする支援だけをイメージしがちでしたが、そのような直接対応をすることだけが支援ではないということ、そして広い視野で子どもへの支援を考えることが大事だと思いました。また、田中さんが事業や経営の視点からの現実に即したお話をしてくださったことで、今まで私は理想論のようなことばかり考えがちだったのですが、今回、考えが至っていなかった部分についても考えることができました。”日本語”にこだわりすぎず、でも日本語教師の視点からできることは何だろうか、今一度考えていきたいと思います。今回の寺子屋に参加でき、田中宝紀さんのお話が聞けて本当によかったです。ありがとうございました。
9	海外ルーツを持つ子どもの支援に、多くの方々が心を寄せ、熱い思いで取り組まれている姿に共鳴いたしました。実は経験を積めば積むほど壁にぶち当たり正直悩んでおりました。田中先生から組織の立ち上げと維持に関する話を伺い、私共の日本語教室についても、敬意を払って参加しようと改めて思いました。また数々のお話を伺う中で、現状を受け止め見方を変えて一歩進むことを学びました。昨日から小学校で日本語の取り出し指導が再開し、子どもたちに久々に会うことができました！子どもが45分で進化してゆくのを目の当たりにして、こちらもギアをあげねば～という気持ちになりました。今後もみんなの明るい未来の為に、少しでも役立てますよう努力を続けたいと思います。末筆ながら田中宝紀先生、嶋田和子先生、皆様、本日はどうもありがとうございました。
10	貴重なお話を伺えてよかったです。 ・資金力は保険になるということ。これは一般の会社などでは当たり前のことなのでしょうが、教育、ホスピタル精神の面を強調して、ついつい避けられていた現実の一つだと思います。(今のコロナ禍のもとでの多くの日本語教育機関の直面しているテーマでもあると思います) ・学年を外して、クラスを分ける場合もあるというお話を伺っていて日本語学校でもこういうクラスを組むこと(X回 / 週)も自律性学習などともあいまって、効果を持つかもしれないとも思いました。 最終決定者は当事者であることが支援というのは、教師が自身を厳しく律し、俯瞰する目をきちんと養うことと連動しているとお話を伺いながら感じたところです。 最後、田中さん＋能代の北川先生がお話なさったことと絡めてですが、「どこかで助けてもらっている」という認識が、「なくては困るもの」という認識に変わっていくように支援できることを特定して買ってでるという姿勢。これが受け入れられた時、今の日本語教育の待遇を含めた取り巻く環境も変わっていくのかもしれないと思いました。 貴重なお話をありがとうございました。
11	当日のメモ用紙がぎっしり埋まり、 大変貴重な勉強の機会をいただけことに感謝しております。 YSCさんの中で海外ルーツ支援の必要性を説き、 すぐには理解されなかったお話をお聞きして驚いたのと同時に、 海外ルーツの子供たちに関わる人へ「なぜ支援が必要なのか」「どのような現状や課題があるのか」を知ってもらい、情報を共有することで、支援の輪が広がると思いました。名もなき人間のつぶやき、話しでも、巡り巡って子供たちの笑顔や喜びや生活の一助になれば本当にうれしいことです。 また、日本語教育機関や教師の経済的な自立も子供たちへの安定的で継続的な支援につながるという観点は全く考えていなかったことで、考えさせられました。 お聞きしたことを活かし、考え、改善しながら子供たちの支援につなげていきます。ありがとうございました。
12	今回のテーマは「海外にルーツを持つ子ども支援の現状と課題」ということで、私は勉強面のノウハウばかり考えていました。しかし、田中先生からNPOのマネジメントに関するお話を伺い、厳しい現実を知ると同時に、田中先生とスタッフの皆さまの取り組みに頭が下がる思いがしました。政府は外国人労働者の受け入れを拡大するだけしておいて、その子供たちの就学を含め、後のことは地方自治体やNPOに丸投げしているような印象を受けました。外国につながる子供たちを支援するため、ファンドレイジングをしなければならない日本という国で、はたして多文化共生社会が実現できるのでしょうか。政府の「人間らしい対応」を今後期待してみたいと思います。
13	日本語指導はお金にならない、地域を巻き込むよりマネジメント力が必要、行政に頼ると言いたいことが言えない・・田中氏の話を聴きながら能代のやり方を全面否定された気がしました(苦笑）が、学習者を社会的存在として捉えるためにも行政や地域住民を巻き込む必要があると思っています。言葉を使って何ができるか、実践で見せていくしかないと思いました。日本語教育推進の基本方針が出ましたね。私が思い続けてきたことでもあり、嶋田先生が様々な場所で言い続けてきたことですね・・間違っていなかったと改めて思いました。感想文遅くなってすみません・・多くの子供たちを救うためにも、行政とのマネジメントを本気で考える必要があると改めて思いました。

14	今まで興味はあるけれどなかなかつながれないと思っていた方でしたので 大変興味深く参加させて頂きました。経営部分から「お金の話」というのは、日本語教師のセミナー等ではなかなか聞けない部分でもあります。授業形態についても理想ばかり追いかけるのではなく、「集団、できる範囲に落とし込む」という考え方も合理的で共感が持てました。学校の先生との関係作りもそのまま私の状況にあてはまるわけではないですが、１つ例を教えていただいたことで引き出しを増やすことができた気がします。次は、具体的に自分で教えられる、コーディネータができるという「実践」の部分に進み、近い将来、教育部分に関し、「提案」ができるようになりたいと思います。教えて頂いたとおり、既存の組織の内部事業として、何か作れたらうれしく思います。
15	ＮＰＯ法人の経営的見地からの運営努力に感心しました、貴重な体験談も面白く聞かせていただきました、ありがとうございます。本寺子屋で期待していたのは自治体(教育委員会)・学校との連携内容と成果の具体例でした、私たち日本語ボランティアの門（水曜日の午後２時間）をたたく日本語ゼロの児童の中には、「その時間帯は学校出席扱いになっています」という者もいます、しかし学校側からの児童の情報はありませんでしたし、家族との話し合いでも日本語学習目標が曖昧模糊で対応に困ることが多かったです。これを機会に千葉県自治体(教育委員会)・学校サイドの基本方針と実行例を勉強し、連携の労を惜しまないようにしたいと思います。
16	とにかく田中宝紀さんのお話をじっくり伺うことができて幸せでした。どんな事業も、そもそもの「思い」がないと、はじめられないと思いますが、はじまったあと、それを長くつづけ、本当に誰かの役に立つものにするために「思い」以外にどんなものが必要か、ということを、とても詳しく、丁寧に、うまくいかなかったことや反省されている点も含めて、赤裸々にお話してくださいました。 「うまく目立つ」「親との会話を（一時的に）失うことがあっても……」「いい意味での丸投げ」「先生にトラウマを作らない」「取れるところから取る」「当事者である移民のコミュニティのちからを」「リスクヘッジとしての孫の手」などなどなど（私の聞き間違い、記憶違い、メモの取り損ないなどお許しください。いやそもそも文字化してはいけなかったんでしたっけ？嶋田先生ご判断ください）の至言、名言が散りばめられていました。田中さん、本作りましょうよ、本！
17	小・中学生に向けての支援に携わるにあたり、どのように彼らに関わっていけばいいのか漠然とした不安がありました。この度お話を伺い、自分ができることを１つずつ進めていこうという気持ちになりました。母語と日本語、どちらに軸を置くのかというのは、教えていただいたように、当事者であるその子どもがどのように考えているのか、またご家族のご意向を重視することを意識して関わっていこうと思います。 ありがとうございました。
18	今回は、貴重なお話をありがとうございました。 NPO青少年自立援助センターで田中さんがどのようなお仕事をなさっているかよくわかりました。自立就労支援も海外ルーツの子ども支援も、コロナ禍でオンラインでの支援が必要となり、急激な変化にご苦労もおありだと感じました。日本語教育でオンライン化したことでも感じましたが、コロナ禍で生まれた問題とは別に、そもそも抱えていた問題が浮き彫りになったこともあり、問題を整理し解決したり変わったりしていく必要性を強く感じます。新鮮だったのは、「資金調達」という側面です。専門家が専門家として食べていけるような環境を整えるにはどうしたらいいかといった問題と、早急に考えていかなければならない事態もあり、資金面ではどのような解決ができるだろうかと考えることはよくありました。受容と供給の「マッチング」を図ると言う、ある意味経済的企業的発想のように思いましたが、教育の上でも考えられるのだと気づかせていただきました。 コロナ禍で、今までの当たり前を当たり前としないで、視点を広げなければならないことや、発想力・行動力・転換力の足りなさだけだったと言う部分もたくさん気づかせていただいたはずなのに、まだ固定観念で考えていた狭さにハッとしました。しかし、日本語学校のような教育機関が乗り越えなければならない、また、配慮しなければならないこともたくさんあります。柔軟かつ慎重に発展していけたらいいと感じました。 また、母語維持の問題は、これからもっと議論されていかねばならない問題ですし、教育の面からだけでなく、社会でどう向き合っていくのかという、市民が問われている時代だと感じました。日本社会が外国から来てくださる人とどう向き合っていくのか・・・まだまだやっと向き合う準備を始めたくらいの段階ではないかと感じます。自分ごととして捉えられるような、社会に向けた発信も必要かも知れないと感じました。 田中さんの行っていらっしゃることは、重要な役割を持ったお仕事だと思いました。私は、地域社会の中でどのような役割を果たせるのか、現在模索中ですので、何かコラボで来ましたら、ぜひよろしくお願いいたします。

19	嶋田先生、田中先生、この度はありがとうございました。 なかなか聞けないお金の話を伺うことができ、貴重な体験となりました。 教壇に立っていると、毎日の授業や目の前の仕事に必死になり、お金や経営のことまで頭が回らないのが現状です。少しずつそちらの方にも目を向けなければならないと感じました。 将来のことはまだ分かりませんが、何かを立ち上げようと思った時にはこの講演を思い出します。立ち上げようと思うずっと前にこのようなお話を伺えてよかったです。 明日の授業のその先につながるお話でした。 ありがとうございました。
20	貴重なお話を色々な角度で伺え、大変勉強になりました。団体としてのミッションが明確であり、それがきちんと内部で共有されているからこそ、事業の優先順位、資金や人的パワーの使い方にブレがないのだろうと思いました。 その他印象に残ったお話しは「日本語教師の専門性」と「資金調達」です。日本語教師がステップアップしていく中で教える現場から離れ、マネジメントをすることで意欲をなくすこともあるというお話は確かにその通りだと思うとともに、マネジメント業務を経験することで資金調達の大切さや現場の働きやすさというところに目を向け、教える現場に還元できるので、マネジメント方向のステップアップ、執筆講演方面のステップアップの両面を考えて行ってもよいのではないかと感じました。 資金調達については、獲得してきた金額の1/2-1/3を渡して、次大きな金額を獲得してもらうこと、小さな自治体の大きくない金額の助成金が団体のためにならないならもらわないということが強く印象に残りました。活動を継続させていくためだけでなく「よりよく継続していく」ために、入り口と出口、その先を考えて行くことが重要だと気づきが大きかったです。 最後に余談ですが、日本語教師の働き方である教師が朝、昼、夕方と授業を担当しているとお話しに出たかと思うのですが、次の新しい教師にもそのような働き方を暗黙の内に求められてしまうのはかなりプレッシャーなのではないかと感じました。特に団体の特色から労働と社会貢献が切り離せないので難しいところかと思いますが、これからを考えると持続可能な働き方を整える必要も近々出てきそうな気がしました。 つらつらとまとまりなく書いてしまいましたが、色々と考えさせられるお話を本当にありがとうございました。
21	一度は田中宝紀さんのお話を伺ってみたいと思っていたのですが、嶋田先生のお陰でこんなにも早く実現して、大変嬉しく思いました。 今回参加させていただき、これまでの概念が覆され、また、新たなアイディアをいただきました。 まず、子どもに教えるときは1対1であるという概念です。たしかに経営的発想は大切だと思いました。あと、ファンドレーダーを連れて来るという発想も継続していくためにはとても重要だと思いました。 また、母語での教科の指導にオンラインだと、国内を問わず帰国している学生たちに仕事をつなぐことができるとひらめきました。通訳が必要なときも、オンラインだと場所を問わずお願いできるので、いいですね！ さらに、各地で奮闘されている方々のお話を伺うことができて、励みになりました。皆さんの前向きなパワーをボランティアとしてではなく、ちゃんと価値に見合った対価をお支払いできる仕組みを作り、携わるプロの日本語教師を豊かにしていきたいと思いました。 タイムリーなときに、参加させていただき、誠にありがとうございました。 田中さんと嶋田先生に改めて心からお礼申し上げます。 只今チャレンジ中のクラウドファンディングも残り14日となりました。 学びが止まっている海外ルーツの子どもたちと仕事を失いかけている日本語教師をつなぐ取り組みです。 ゴールまで応援、よろしくお願いいたします。 https://camp-fire.jp/projects/view/282090
22	実際に様々なことに取り組んでこられ、た経験談や、お写真に触れることができ、心打たれるものを感じました。大きく活動を展開していかれるまでのお話の中で、一番印象的だったのは、やはり人を大切に考えておられる点でしょうか。経営していく中で、実はこれが一番微妙で難しいことだと思います。この度は、日本語を必要とする人々に必要と思われる居場所を柔軟に造るべく、現実的に展開してこられた経緯を少しなりともお聞きすることができ、エネルギーをいただきました。ありがとうございました。

23の1	普段は進学クラスを担当しているので、子ども世代の日本語教育事情はほとんど知りませんでした。 今回、参加させていただいて、多くの学びを得ました。 具体的には、 １．　田中先生が、多文化コーディネーターと、日本語教師の役割を明確に分担している、とおっしゃっていましたが、それが事業がうまく行っている大きな点ではないかと思いました。何もかも、教師に担当させた場合の授業の質の維持と、教師のストレスを考えると、「教える」ことに専念できる環境を、きちんと作っていらっしゃるのは、脱帽です。 それぞれの個性や能力が発揮しやすい環境だと思いました。 ２．授業数が多いのには驚きました。 どんなカリキュラムになっているのか、とても興味を持ちました。あれだけのコマ数を、こなしておられるの、頭が下がります。どうやったら、そんなに担当できるのか、本当に知りたいです。 一コマは何分なのでしょうか？　４技能全部一コマに入れるのでしょうか・・・。 教科書は？など、とても気になります。（お話を聞く機会を設けていただけると嬉しいです。） ３．また、多文化コーディネーターのカバーしている範囲の広さに驚きましたが、同時に必要だとも感じました。 いきなり、学級に異文化の生徒が入学してきて、日本語もあまり話せない・・・。 担当の先生お一人では、さすがに荷が勝ちすぎているだろうと思いました。 先生を孤立させない、なかなか学校内では難しいだろう、異文化の専門家が寄り添ってくれたら、先生もそして、その生徒も、そして、クラスの他の生徒もみんなが、乗り越えて、 逆に、これからの世界に生きるために必要な異文化理解の学びが得られるだろうと 感じました。
23の2	学校側の受け入れがなかなか大変だとおっしゃっていました。 まだまだ、保守的なんですね。 学校側も早くドアを地域に開いて欲しいと思いました。学校内で固まっているより、 外の世界とつながって活動した方が、はるかに多くのものを得られると思います。 その子のタイミング、親子間の共通語を喪失してもその子にとって必要なら、やるという決断、それを支えるチームの頑張りが印象に残りました。 本当に真剣に向き合っているからこその決断だと思いました。 また、情報共有をサイボウズOfficeで行っている点。 従来のような「引き継ぎ」と比べてはるかに効率的だと思いました。 生徒ひとりひとりの、日々の様子がわからないと、私は不安なので、こういう情報共有があるとありがたいと思いました。（先生によってあまり学生の様子に頓着されない方もいて、 そういう方とチームになった時はつらいので、うらやましく感じました。もっとも、そこに学生の様子をかき込んでいただけないとどうしようもないのですが・・・。） ４．公的機関からのお金は、いろいろと縛りが多いというのも興味深かったです。自由度があまりにもないというのは、いかにもという気がしましたし、使える範囲が既定されていると、それだけで雑務が増えそうです。税金を使うなら、ぜひ田中先生のとこに、と思います。それなら税金を払っても腹が立ちません。 寄付に関して、企業のCSRの担当をターゲットにすることもある、というのは、いいところに気づかれたなあ、と感心してしまいました。日本の企業は、まだまだCSRの概念がよくわかってないような気がしています。CSR、やらなくちゃ、というので、結構、つまらないところにお金を使ったりしている企業も多いように感じます。田中先生の活動のような、本当に使う価値のある活動に、出資してもらうのは、企業にも良いことではないかと思いました。 　　ちっとも「どろどろ」してないと思います。きれいなお金だと思います。

23の3	５．また、教師のキャリアアップにまで、心を砕いているのは驚きました。 たまにですが、非常勤を使い捨てみたいに考えている学校もあるやに聞いております。雲泥の差ですね。稼げるときに稼いでもらう、とおっしゃっていましたが、そういう組織はめったにないと思います。考え方が、世間より一歩も二歩も、（何千歩も？）進んでいるんですね。 ６．集団授業で80%をカバーしていて、上の10%はどこへ行っても大丈夫な学生で、下の10%は別枠で、ニーズに合わせて対応されるというお話もありました。これも、目からうろこ、でした。 普段のクラス運営に、活かせないかと、思ってしまいました。 （来学期、試してみたいと企んでいます。今は成績出しでいっぱいなので・・・。Can-do評価だけなのですが、非常に時間がかかります。オンラインだったので、情報量が少なく、余計つらいところです。） ７．留学生のボランティアのお話で通訳として小学校へ行く、という。母語での、学習支援、これもいいですね。実は、授業内で、ボランティア活動をしたときに、日本語で、新入生を助けるという活動を考えたグループがあるのですが、なかなかうまくいかず、他のテーマに変更したことがあります。 田中先生のお話では、母語を使うという、それこそ留学生の最大の武器を使っての、しかも必要とされている活動。 留学生の側も、得るところが大きいだろうと感じました。 Winwinですね。